

多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

日時：令和元年11月21日(木)～22日(金)

参加者：

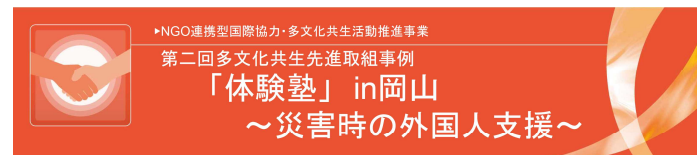
地域国際化協会、市町村国際交流協会、自治体より33名

(うち危機管理担当者3名)

取組の概要：

「災害時の外国人支援」

近年の度重なる災害と在留・訪日外国人の増加によって、災害時の外国人支援の重要性が認識されてきている中、災害時の外国人支援のための施策立案等に生かすことを目的に、平成30年7月豪雨を経験した岡山での対応や、その際の教訓を踏まえた対応状況について聞き取りを行うとともに、具体的な施策立案に向けたワークショップ等を行った。



一度経験しないと現実味を持った準備が難しい「災害時の外国人支援」について、平成30年7月豪雨で被災した岡山を舞台に学びます。

被災時の混乱状況から先進的な取組み、今後の連携へつなげるお話まで、多方面からのお話を一度に聞くことのできる貴重な機会です。

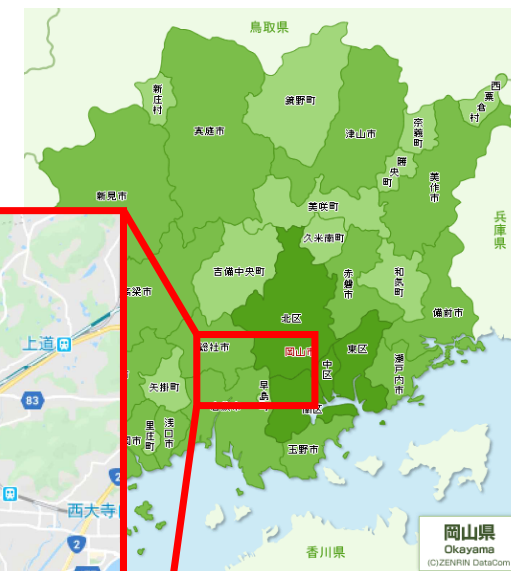
まずは被災地に学ぶことから始めましょう！

- **テーマ** 災害時の外国人支援
➢ 近年の度重なる災害と在留・訪日外国人の増加によって、災害時の外国人支援の重要性が認識されてきている中、平成30年7月豪雨を経験した岡山での対応や、その際の教訓を踏まえた対応状況について聞き取りを行い、災害時の外国人支援のための施策立案等に生かす。
- **期日** 令和元年11月21日(木曜日)～22日(金曜日)
➢ 11月21日12:00岡山駅西口バスターミナル集合
- **会場** 岡山県内各地
- **対象** 市区町村国際交流協会、地域国際化協会、自治体の職員
- **定員** 20名程度
➢ 先着順、申込み多数の場合各団体1名まで
- **費用** 無料
➢ 貸切バスを除く交通費、宿泊費(各自手配)、食費は各自負担をお願いします
- **申込期間** 10月1日(火)～10月18日(金)
➢ 申込用紙を tabunka@clair.or.jp へお送りください(担当者:金子)



多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

視察先



多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

プログラム

統括ファシリテーター：明木一悦氏（地域国際化推進アドバイザー）

1日目：11月21日（木）

■被災地視察・ヒアリング（中華料理新四季真備店）

■倉敷市真備支所訪問

倉敷市国際課

岡山県華僑華人総会

■総社市訪問

総社市人権・まちづくり課

■情報交換会



多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

プログラム

2日目：11月22日(金)

■岡山外語学院訪問



■NPOによる講義

災害支援ネットワークおかやま
(特活)アムダ

■ワークショップ

訪問先・講義で学んだことについてグループで議論
具体的な施策立案に向けたグループワーク、発表



多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

参加者の声

「体験塾」全般について

- ・実体験がなく災害対応の体制を整備・強化しなければならない中、様々な立場の方から経験に基づいたお話を聞いたのは非常に有益だった。
- ・現場を見て、実際に災害対応した方の話は重く、一つ一つの言葉が心に残った。
- ・平時からコミュニケーションをとり、つながりをもつことが大切だと感じた。

倉敷市真備支所での講義について

倉敷市国際課

- ・外国人被災者の状況把握の難しさがよくわかった。
- ・隣接する総社市との連携ができている点が素晴らしいと感じた

岡山県華僑華人総会

- ・行政だけではなく団体やキーパーソンとのネットワークが災害時には必要となることを学んだ。
- ・劉さんのようなコミュニティリーダーが増えていくことが望ましい。

総社市役所での講義について

- ・市の中で横断的に外国人の支援に向け訓練や研修をしている点を参考にしたい。
- ・全国の被災地での活動を多くの職員が体験していることの強みを感じた。
- ・私たちの町でも外国人リーダーを養成して近隣市町と連携して人命救助に当たれたらと改めて思った。
- ・外国人職員が正規職員になることで進められることがあると感じた。

多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

参加者の声

岡山外語学院訪問について

- ・行政や国際化協会はもっと日本語学校と連携すべきと思った。
- ・企業にも留学生や外国人の防災について認識してもらう必要があるというのは新しい発見だった

NPOによる講義について

災害支援ネットワークおかやま

- ・SDGs関連のネットワークを防災ネットワークに移行していくというアイデアにはなるほどと感じた。
- ・IT 活用や団体をつないでいく方法、資金調達など岡山の経験を活かしたい。

AMDA

- ・県内に国際NGO があることがとても強い。赤十字やNGO等、世界中で命を救うために最前線にいる人たちとの連携は、日本人側の外国人の受け入れに対する受容力を高め、外国人コミュニティにもつながりやすいのではないか。

ワークショップについて

- ・多くの人と考えを共有、また様々なとらえ方を知ることができた。多様な団体に関わる柔軟性のある災害多言語支援センターの必要性を感じた。

多文化共生先進取組事例「体験塾」in岡山 実施報告(概要)

メディア掲載

- 11月23日付 山陽新聞朝刊(24面)
- 11月23日付 山陽新聞朝刊(28面)
- 11月23日付 毎日新聞朝刊(26面)

災害 外国人支援は？

倉敷市、総社市で研修会
大規模災害などの非常時に日本語で意思疎通が困難な外国人住民への支援方法などを考える研修が、昨年の西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市や総社市で21、22日に行われた。参加した県内外の自治体職員ら約30人が熱心に耳を傾けた。一般財団法人「自治

毎日新聞
11月23日(26面)



西日本豪雨時の状況を説明する倉敷市国際課の職員—倉敷市真備町前田で

避難情報 多言語対応を

日本語学校訪問 AMDA 講義も

全語の自治体や国際交流協会の職員が災害時の外国人支援について学ぶ「体験塾」が22日、岡山市内で開かれた。市内の日本語学校や国際医療ボランティアAMDA(北区伊福町)から講義を受け、昨夏の西日本豪雨の教訓を踏まえた安全確認の方法や避難所運営について理解を深めた。

災害時外国人支援 全国自治体職員ら「体験塾」



岡山外語学院の山中校長が災害時の外国人支援について学ぶ自治体職員らへ講義する様子。岡山外語学院の山中校長が災害時の外国人支援について学ぶ自治体職員らへ講義する様子。

豪雨教訓 外国人支援学ぶ



中桐課長(右)から西日本豪雨時の外国人支援について話を聞く参加者—倉敷市真備支所

山陽新聞
11月23日(24面)

全国自治体職員ら 倉敷や総社訪問
西日本豪雨を教訓「災害時の外国人支援の在り方について学ぶ自治体国際化協会主催の「体験塾」が21日から2日間の日程で倉敷市などで始まった。全国の自治体や国際交流協会の職員が被災地を訪ね、施策立案のヒントを探った。倉敷市を訪問。倉敷市総社市を訪問。倉敷市

が、これまでに養成してきた外国人防災リーダーが豪雨時、ポータルで日本人被災者を救出した事例などを紹介。日頃から外国人とのつながりを深め、災害時に行政が正しい情報を発信することが大切」と訴えた。22日は、岡山市内で外国人学生に対する災害教育などへの理解を深める。(山内悠記子)